

プロジェクト名	トップアスリートにおける動きのコツに関する研究		
プロジェクト期間	平成 22 年度		
申請代表者 (所属講座等)	鈴木 淳 (保健体育講座)	共同研究者 (所属講座等)	池田 修 (保健体育講座)
取組方法および 取組実績の概要	<p>本プロジェクトは、球技スポーツにおけるトップアスリートが有する動きのコツを、アンケートとインタビューによって調査するというものであり、インタビュー調査において、従来の聞き取りに加え、ゲーム分析システムによって編集されたゲーム映像を用いることにより、より具体的な実践知を引き出そうとするところに大きな特長がある。今回は、トップアスリートの中でも球技の審判員に注目し、日本トップレベル審判員の動きや判定のコツを知識化するという試みを行った。</p> <p>審判員の動きや判定を対象とする意味は、それらが指導者のゲーム観察力やゲームコントロール能力に関連する可能性が高いところにある。トップレベルの審判員がどのようにゲームを観察し、ゲームコントロールしているのか、その事例が明らかになることによって、指導者のゲーム観察力、ゲームコントロール能力養成をどのように行ったらいいのか明らかになる可能性がある。</p> <p>インタビューは、6月から2月にかけて継続的に行い、現在も継続している。6月から8月にかけて行ったインタビュー調査の結果は、その時点までの研究成果として福岡教育大学紀要に発表した。映像分析システムの導入は9月に行い、10月～11月にかけて映像資料の収集、編集方針の作成、映像編集作業を行った。1月から映像を用いたインタビュー調査を行い、2月の段階で終了している。現在、テープ起こし、テキストのコーディング、審判員の動き及び状況判断に関するモデル化の作業を行っており、3月から4月にかけて論文を投稿する予定である。</p>		
研究成果の概要	<p>球技における状況判断は、先行研究の結果から「外的ゲーム状況に対する選択的注意」「ゲームの状況認識」「ゲーム状況の予測」「プレーに関する決定」の4つの要素があるとされている。それを一つのモデルとしてインタビュー調査を行った結果、審判員の状況判断の実践知として、1) 審判を行う際の基本的態度・考え方やフィロソフィーが重要であること、2) ある現象が引き起こされる背景の理解が重要であること、3) 予測なしにはよい状況判断ができないこと、という3つの新たなモデルを引き出すことができた。</p> <p>さらに、ゲーム全体を掌握するゲームコントロールには、「技術の理解」が必要であるという仮説を導き出した。ここでいう「技術の理解」とは、個々の選手や個々のチームの能力に見合った技術、ゲームの様々な状況を打開する技術、というものを理解することを意味する。これらは、従来の技術観とは異なる、実践に裏付けられた技術観であり、スポーツの実践現場には非常に有用な知見となるものである。</p> <p>以上が現在の研究成果である。編集された映像資料を用いたインタビュー調査の結果は現在、検討中である。今後の課題としては、これまでにインタビュー調査によって得られた実践知がどのような過程を通して、どのようなきっかけがあって身につけられたのか、また、具体的なゲーム場面で何を感じ、何をみて、どのように行動をしているのか、これらを一つのモデルとしてまとめることにある。</p> <p>現在のところ得られている研究成果は、客観的にトップレベル審判員の特</p>		

<p>徴を捉えるのではなく、トップレベル審判員が実際にどのような考え方でゲームに臨み、どのように行動をしているのか、審判員の視点に立った知見が得られているためにスポーツの実践現場において非常に有用なものと考えられる。従来のマニュアルや指導書には見ることの出来ない非常に有用な知見である。状況判断に関わる審判員や指導者の育成にも多大な影響を与えることが予想される。</p> <p>これらの研究成果は、九州体育学会及び日本体育学会で発表するとともに日本スポーツ方法学会及び日本バスケットボールコーチコミッティーに投稿する予定である。また、日本バスケットボール協会の審判部会及び指導者育成委員会にもレポートという形で提出する予定になっている。学会発表の後に、個人のホームページ上でも公開し、指導者や審判員の方々と議論する試みも行いたい。</p>			
<p>外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について</p>			
<p>外部資金獲得申請（予定）</p>	<p>科学研究費補助金</p>	<p>研究成果の公表方法（予定）</p>	<p>日本スポーツ方法学会で発表予定。雑誌論文等スポーツ方法学研究に投稿予定。</p>